

平成 30 年 1 月 18 日

関係者 各位

理事長 小林 弘 祐
学 長 伊 藤 智 夫
医学部長 宮 下 俊 之

医学部研究用液化炭酸ガスボンベの破裂事故について（最終報告）

平成 29 年 9 月 12 日（火）に発生した本学相模原キャンパス医学部における研究用液化炭酸ガスボンベの破裂事故につきましては、9 月 13 日（水）に速報として被害状況等についてご報告いたしました。その後、当該ガスボンベの納入業者と原因究明のため調査を進め、この度、調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

研究等に使用される高圧ガスボンベは、通常、ガス販売業者所有であり、多くの消費者（企業、研究機関等）に繰り返し使用されますが、今回の調査で、本学以外の特定の施設で特定の時期に使用された際に水が混入したガスボンベが、複数見つかりました。本学で破裂事故を起こしたガスボンベも、同時期にこの施設での使用履歴が確認され、水が混入した状態で炭酸ガスが充填されていたこととなります。このガスボンベが破裂に至った原因としては、腐食部金属分析結果により、ガスボンベ内へ混入した水に炭酸ガスが溶けたことで炭酸腐食を生じたこと、また、高圧下というガスボンベ内の環境が予想外の激しい腐食をもたらした結果、内部腐食によりガスボンベに穴が開き破裂に至ったとの結論に達しました。本調査結果を、本件の所轄部署である神奈川県央地域県政総合センター環境部へ報告したところ、「現在、法令等で規制している検査等においては、今回のような水の混入による高圧ガスボンベの破裂事故は想定外のことであり、今後の再発防止対策として、ボンベの検査業者及びガス充てん業者へ注意喚起を促すとともに、神奈川県のホームページに事故事例として掲載する予定である。」との見解を得ております。本学では医学部での使用について問題はないと考えております。

本件につきましては、関係の皆様には大変ご心配をお掛けいたしました。本法人においては、既に再発防止に向けて、全キャンパス内に設置している各種ガスボンベの再点検を実施しました。また、ガスボンベ納入業者に対しても、水の混入を防止するため、炭酸ガス容器の容器弁を直ちに、残圧保持・逆流防止機能付きのものに更新するよう要請しており、教育研究環境の安全確保に努める所存でございます。

以 上

問い合わせ先
法人本部総務部広報課
TEL：03-5791-6451